

デジタルとフィジカル 有本理美



Dance Itself 2026 single-channel video, size variable © Rimi Arimoto

会期：2026年9月15日(火)－ 10月4日(日) 13:00～19:00

休廊：9月21日(月・祝)、9月28日(月)、9月29日(火)

会場：The White 東京都千代田区猿楽町2-2-1 #202 #205

主催：The White

企画：梅津元／CREAM CREATION

web: <https://www.the-white-jp.com>

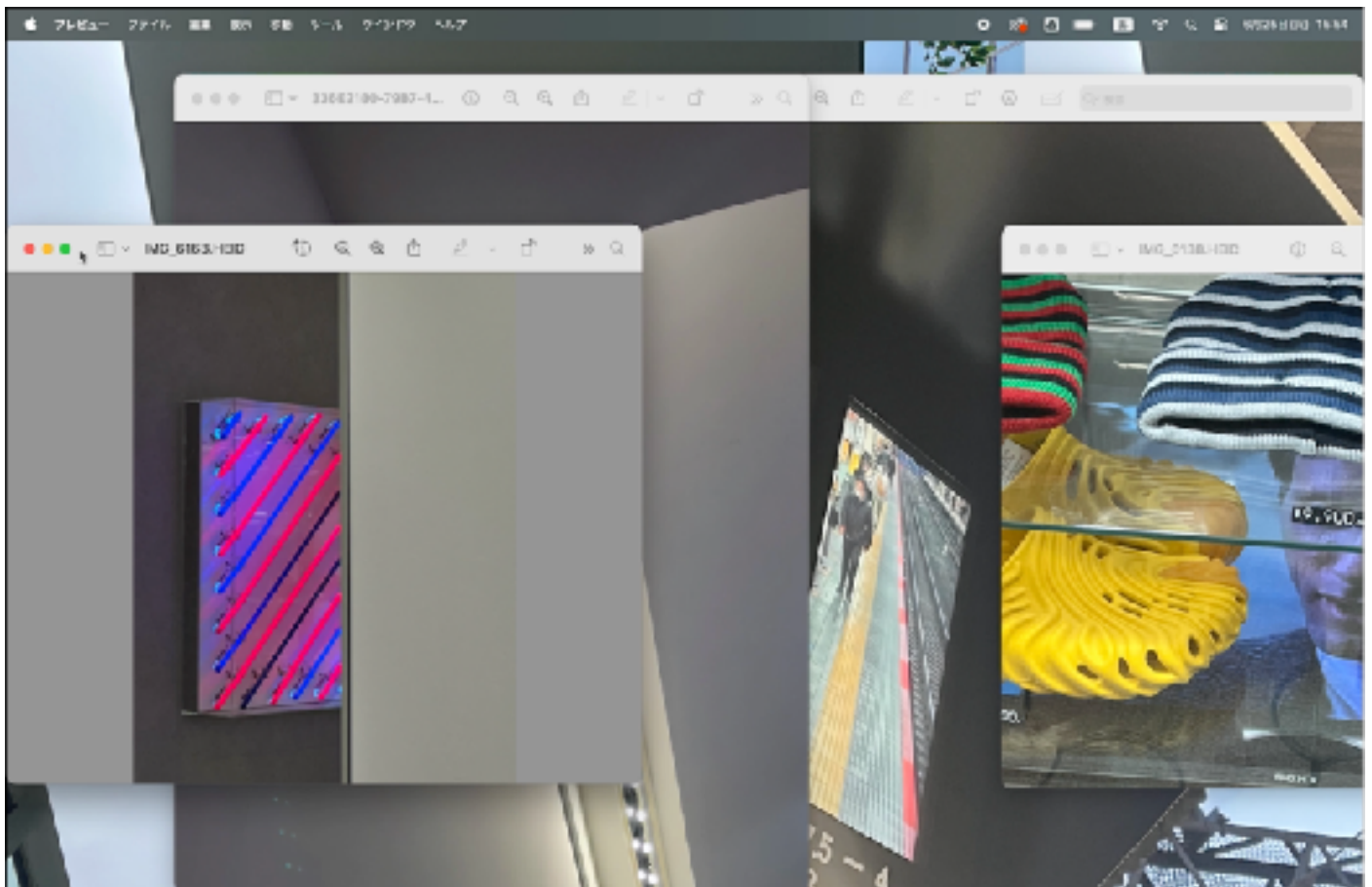
instagram: @alternative_space_the_white

企画者テキスト：https://www.the-white-jp.com/content/files/264_02.pdf

展覧会概要

この度The Whiteでは、批評家／キュレーター・梅津元氏に企画を委ね実現した2024年の「樋口朋之 DUB/stance」に続くシリーズ第二回として、「デジタルとフィジカル 有本理美」を開催します。有本理美（ありもと・りみ）は2001年神奈川県生まれ。2024年に多摩美術大学美術学部絵画学科版画専攻を卒業し、2026年に同大学大学院修士課程を修了。2026年2-3月にはKANA KAWANISHI GALLERYでのグループ展「Seen, Remembered, Unmake みる・記憶する・ほどく一視点と痕跡」に参加するなど、在学中より注目を集めています。有本は、写真／映像／音などの媒体を横断し、デジタル時代における画像のあり方や映像体験を知覚的側面から探求しています。本展では、映像から発動する体験に着目した作品を軸に、パーソナルデバイスで世界が完了するかのように見える現代において、イメージとスクリーン、そして身体はどのように関係しているのかを問います。梅津氏は本企画シリーズにおいて「批評の活性化を企画の重要な動機とする」と掲げています。前は絵画が議論の中心でしたが、今回は、版画、写真、映像についての議論を深めるために、中尾拓哉氏（美術評論家／芸術学）、山崎香穂氏（東京都写真美術館 学芸員）をゲストに迎え、二つのトークイベント（申込制）を開催します。有本の作品を紹介するだけにとどまらず、そこから喚起される批評を切り口とした展覧会を試みます。また、各トークイベントの後には作家を交えた懇親会、クロージング・パーティーを開催します。懇親会、クロージング・パーティーの参加は自由となっておりますので、ぜひお気軽にご参加ください。皆さまのご来場を心よりお待ちしております。

(The White 主宰 澤田育久)



Patterning View 2024 single-channel video, size variable © Rimi Arimoto

ステイトメント

そこにある現象は、すでに映像として捉えられるのではないか。

この問いをもとに、写真／映像／音などの媒体を横断し、見ることと映像の関係性あるいは現れを探る。

- 思考の記録

現在地、都市。

もう何も気にならなくなった。人々の雑踏で、他人と交錯するようにデジタルサイネージを見送る。

通知のバイブレーションが響いて無気力を覚ます。

2026/08/03

デジタルアートではない 現象としての映像と捉える

美術として映像を提示するということ 絵を見るように見て欲しい

2026/06/06

- 展示概要

本展では「デジタルとフィジカル」を主題に、映像から発動する体験に着目した作品を発表する。

パーソナルデバイスで世界が完了するかのように見える現代において、イメージとスクリーン、そして身体はどのように関係しているのか。

- 展示予定作品

* single-channel video,
size variable

- Noise 2022
- Windows Overlap
Each Other 2024
- Patterning View 2024
- Still／Fall／Lift 2025
- Sleep Reality? 2026
- Dance Itself 2026



Sleep Reality? 2026 single-channel video, size variable © Rimi Arimoto

バイオグラフィー

有本理美（ありもと りみ）

2026 多摩美術大学大学院美術研究科修了

2024 多摩美術大学美術学部絵画学科版画専攻卒業

個展

2025 「ASSIMILATION」 Alt_Medium

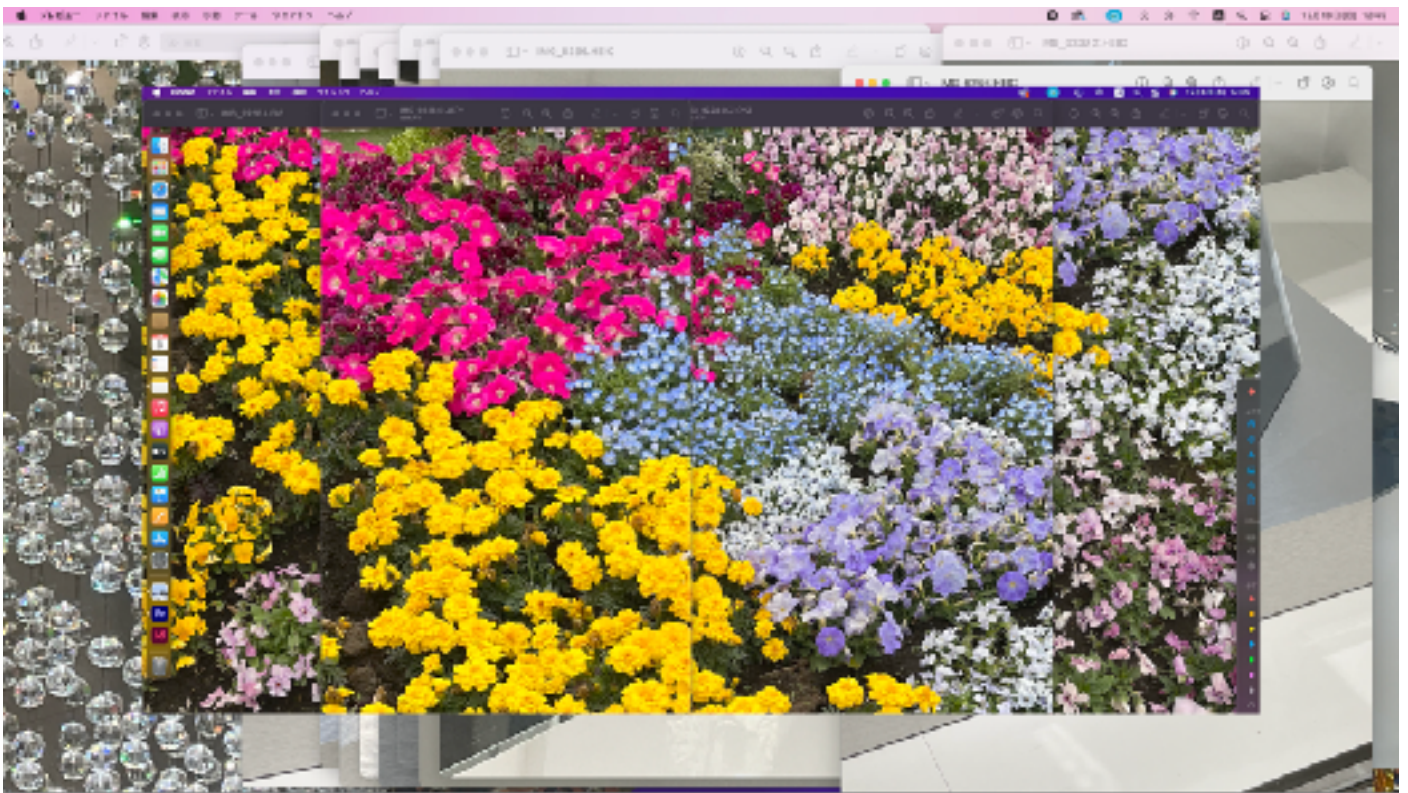
グループ展

2026 「Seen, Remembered, Unmake みる・記憶する・ほどく ― 視点と痕跡」 KANA KAWANISHI GALLERY

2025 「TUB showing 2025」 東京ミッドタウン

「Tamabi Beyond, at the 90th Anniversary」 多摩美術大学

instagram: @rimiarimoto



Windows Overlap Each Other 2024 single-channel video, size variable © Rimi Arimoto

関連イベント

トークイベント：申込制 定員：各20名（予約先着順） 料金：1,000円

マルチタスク時代の映像

中尾拓哉（美術評論家／芸術学）、有本理美、梅津元

9月27日(日) 16:00～18:00 懇親会 18:00～20:00

瞬く間に移りゆくプロセスとしての映像

山崎香穂（東京都写真美術館 学芸員）、有本理美、梅津元

10月3日(土) 16:00～18:00 クロージング・パーティー 18:00～20:00

* 懇親会とクロージング・パーティーは、どなたでもご参加いただけます（申込不要）。

* イベントは別室（＃201）にて行われますので、イベントに参加されない方も展覧会をご覧いただけます。イベント当日のみ、20時まで展覧会をご覧いただけます。

トークイベントの申し込みについて

* トークの予約は、各開催日の前日までに、以下をお読みいただき、メールでお申し込みください（定員に達した時点で受付終了）。

* 定員に満たない場合、各開催日の当日、先着順にてご参加いただけます（定員に達した時点で受付終了）。

上記の申し込みにつきましては、どちらも、9月8日(火)13時より受付を開始します。

以下の項目を全てお書きいただき、alternative.space.the.white@gmail.comまでメールにて申し込みください。

メールに記載いただく項目

1. お名前：お名前をフルネームでお書きください。
2. ふりがな：お名前のふりがなをお書きください。
3. メールアドレス：連絡先のメールアドレスをお書きください。
4. 希望日：「9/27(日)」または「10/3日(土)」のどちらかを明記ください。
5. 参加費：当日現金にてお支払いください（お釣りが出ないようお願いします）。受付開始は15時30分です。

※両日とも参加希望の方は、お手数ですが、それぞれメールでお申し込みください。

（1通のメールで申し込めるのは、ひとつのイベントのみです）

トークゲスト

中尾拓哉（なかお たくや 美術評論家／芸術学）

1981年生まれ。美術評論家／芸術学。東京造形大学特任准教授。2015年多摩美術大学大学院美術研究科博士後期課程修了。博士（芸術）。近現代芸術に関する評論を執筆。特に、マルセル・デュシャンが没頭したチェスをテーマに、生活（あるいは非芸術）と制作の結びつきについて探求している。

著書：『マルセル・デュシャンとチェス』平凡社（2017年）。編著書：『SUPER OPEN STUDIO ―制作と生活の集合体』Super Open Studio 2023 実行委員会（2024年）、『スポーツ／アート』森話社（2020年）など。キュレーション：「メディウムとディメンション：Plastic」CS-Lab（2025年）、「メディウムとディメンション：Maze」GASBON METABOLISM（2024年）、「メディウムとディメンション：Apparition」青山目黒（2023年）、「ANOTHER DIAGRAM」T-HOUSE New Balance（2023年）、「メディウムとディメンション：Liminal」柿の木荘（2022年）、「メディウムとディメンション」（「Shibuya Hikarie Contemporary Art Eye Vol.15 3人のキュレーション『美術の未来』」内）渋谷ヒカリエ CUBE 1, 2, 3（2021年）など。2026年、3会期にまたがり断続的に変化する「メディウムとディメンション：Continuum」BAU SHIBUYA（5月、9月、12月）をキュレーション。

山崎香穂（やまざき かほ 東京都写真美術館 学芸員）

1994年生まれ。横浜国立大学大学院都市イノベーション学府建築都市文化専攻修士課程修了。現代音楽やサウンドアートを中心に、それらのアーカイヴに関する研究に取り組むとともに、美術や音楽、メディアアートに関する展覧会評や作品レビューを執筆。現在、東京都写真美術館学芸員。写真・映像を中心とした展覧会の企画・運営に携わる。主な担当展覧会に「TOPコレクション 不易流行」展（東京都写真美術館、2025）、「TOPコレクション トランスフィジカル」展（東京都写真美術館、2025）、「恵比寿映像祭2026」（東京都写真美術館、2026）、「日本の新進作家 vol.23 ふたたびくみたてる」展（東京都写真美術館、2026）がある。



Still/Fall/Lift 2025 single-channel video, size variable © Rimi Arimoto

企画者 梅津元（うめづ げん 批評家／キュレーター）

1966年神奈川県生まれ。批評家／キュレーター。1991年多摩美術大学大学院美術研究科修了（芸術学）。モダニズム以降の芸術の可能性を探るため、美術、写真、映像、音楽に関わる執筆や企画を中心に領域横断的な活動を展開。

主な企画：「伊東篤宏 anima ex machina」工房親（恵比寿映像祭2026地域連携プログラム／2026）、「〈うつること〉と〈見えること〉－映像表現をさぐる：60年代から現在へ」大阪市中央公会堂（ART OSAKA 2025 映像プログラム／2025）、「樋口朋之 DUB/stance」The White（2024）、「トランス／リアル－非実体的美術の可能性」ギャラリーαM（2016-17）、「DE/construct: Updating Modernism－阿木譲をめぐる3つのプログラム」NADiff modern & SuperDeluxe（2014）。

埼玉県立近代美術館学芸員（1991-2021）としての主な企画（共同企画を含む）：「DECODE/出来事と記録－ポスト工業化社会の美術」（2019）、「生誕100年記念 瑛九展」（2011）、「プラスチックの時代 | 美術とデザイン」（2000）、「ドナルド・ジャッド 1960-1991」（1999）、「1970年 物質と知覚－もの派と根源を問う作家たち」（1995）、「〈うつすこと〉と〈見ること〉－意識拡大装置－」（1994）など。

***企画者テキストのPDFを The White のHPに掲載しております。あわせてお読みください。**

https://www.the-white-jp.com/content/files/264_02.pdf



Noise 2022 single-channel video, size variable © Rimi Arimoto

広報用画像

画像（データ）の提供については、The White にお問い合わせください。

ご請求は alternative.space.the.white@gmail.com（担当・澤田）までメールでお願いします。

画像掲載の場合、以下より当該作品のキャプションを明記ください（トリミング、文字載せはご遠慮ください）。

- Noise

2022 single-channel video, size variable © Rimi Arimoto

- Windows Overlap Each Other

2024 single-channel video, size variable © Rimi Arimoto

- Patterning View

2024 single-channel video, size variable © Rimi Arimoto

- Still／Fall／Lift

2025 single-channel video, size variable © Rimi Arimoto

- Sleep Reality?

2026 single-channel video, size variable © Rimi Arimoto

- Dance Itself

2026 single-channel video, size variable © Rimi Arimoto